

様式

パブリック・コメント募集結果

「白井市第6次総合計画前期基本計画（素案）」について、皆様からご意見を募集したところ、下記のとおり、御意見をいただきました。

いただいた御意見とこれに対する本市の考えにつきまして、次のとおり取りまとめましたので、公表いたします。

案 件	白井市第6次総合計画前期基本計画（素案）		
募集期間	令和7年8月22日（金）～ 令和7年9月18日（木）28日間		
意見の件数 （意見提出者数）	21件 （11人）		
意見の取扱い	修正	素案を修正するもの	6件
	既記載	既に素案に盛り込んでいるもの	1件
	参考	素案には反映できないが今後の参考とするもの	1件
	その他	素案には反映できないが意見として伺ったもの	13件

箇所	意見の概要	通番 (氏名)	意見に対する市の考え方
Ⅲ-6 ～ Ⅲ-10	<p>第6次総合計画 基本計画(素案)の作成ありがとうございます。白井市の持続的な発展には、財源(税収)の向上と若い世代の定住の2つが非常に重要と考えています。この2つにぜひ力を入れていただきたいです。</p> <p>・財源の向上について:現在取り組んでいただいているデータセンターなどの企業誘致に賛成です。</p> <p>・若い世代の定住について:私自身をモデルケースとして意見を述べさせていただきます。私は35歳・妻は34歳で共働きです。昨年第一子が生まれました。今年4月に、元々賃貸で住んでいた東京都大田区から、白井市に建てたマイホームに引越してきました。</p> <p>引越し先の決め手は「勤務先の最寄り駅(都営浅草線)に乗り換えなしで通勤できること」「子育てのしやすさ」「地価が安いこと」「自然が豊かであること」の4点です。特に通勤と子育てについては重視しました。</p> <p>若い世代が白井市に定住するきっかけとして、我々のように「都内で暮らしていたが、家賃や住環境が悪く、引っ越したい」というケースがあるかと思います。仮にそのようなケースを対象にするのであれば、「浅草線・京成成田空港線沿いに職場のある会社社員をターゲットにする(企業の本社にチラシを置くなど)」「浅草線・京成成田空港線沿いの自治体(墨田区・葛飾区など)との、補助金などの制度上の差別化をアピールする」などの施策が考えられるかと思います。</p> <p>若い世代の定住に向けた施策をぜひ実施いただければと思います。今後もよろしく願いいたします。</p>	No.1 F氏	<p>御意見のとおり、「都営浅草線に乗り換えなしで通勤できること」「子育てのしやすさ」「地価が安いこと」「自然が豊かであること」の4点は市の強みとしてアピールしていきたいところです。</p> <p>施策の中で白井市の良好な住環境を知ってもらう取組を掲げておりますので、いただいた御意見を参考にして実施して参ります。</p> <p>【その他】</p>
Ⅲ-6 ～ Ⅲ-10	<p>若い世代の定住について</p> <p>【駅前について】 都内で働く若い世代が多い為、駅前が充実していると住みやすいと感じると思います。実際に引っ越してきた時に白井駅前(特に南口)が閑散としているイメージでした。個人的には、屋根付駐輪場の設置(自転車で保育園送迎時に便利)・コンビニ設置があるとありがたいです。</p>	No.2 F氏	<p>白井駅前の特に南口側につきましては、千葉ニュータウンの街開きから40年以上経過していることもあり、老朽化も進んでおります。</p> <p>Ⅲ-26「施策④-1-1 ニュータウンの再生に向けた住環境の整備」において施策目標に駅周辺の整備着手を掲げており、市民の声や土地所有者の意見等と開発事業者のニーズをすり合わせながら再開発を推進する考えです。</p> <p>いただいた意見も市民の声として参考とさせていただきます。</p> <p>【その他】</p>

<p>Ⅲ-8</p>	<p>若い世代の定住について 出会から出産までのライフイベントを安心して迎えるための支援について</p> <p>案①→休日に若い人を対象にした講座(10人程度)を多数用意して男女の交流を図る。講座後はレストラン等で意見交換等を行う。男女の接する機会を多くつくる。</p> <p>案②→白井市は持ち家が多く賃貸は他市より少ない(持ち家比率 90%)。そこで若い家族のための 2DK、3DK 等の良質な賃貸住宅を増やす施策を講じる。居住者には新築家賃の 1 割程度(2年)を助成する。とにかく若い家族が住んでみるのが定住に繋がる第一歩。</p>	<p>No.3 B 氏</p>	<p>本施策に基づき前期実施計画において具体的な取り組みを事業として実施する予定です。前期実施計画を策定する際の参考とさせていただきます。</p> <p>【その他】</p>
<p>Ⅲ-8</p>	<p>【育児フォロー体制について】産後ドゥーラなどに助成金があると、育児フォローに力を入れている市だなと感じます。実際に引っ越し前の自治体で利用しましたが、とても助かりました。産院から退院したあとの2.3ヶ月が大変だと思ったので、助産師訪問とプラスで訪問のサービスが利用できたらいいなと思います。上記のサービスを取り入れる為にも、財源向上を目的にデータセンターの誘致は賛成です。</p> <p>今後の白井市の発展を楽しみにしています。よろしく願いいたします。</p>	<p>No.4 F 氏</p>	<p>いただいた御意見のようなサービス向上は『若い世代が定住したいまち』を目指す上で重要と認識しております。</p> <p>今後も、市民ニーズを把握しながら、サービス向上に努めてまいります。</p> <p>【その他】</p>
<p>Ⅲ-14</p>	<p>施策②-1-1の目標の指標が、取組数、創出団体数になっていますが、重要なのは、取り組んで解決された課題のボリューム、団体数は少なくとも活動の活発さ、規模なのではないでしょうか。指標を再考すべきではないかと思えます。</p>	<p>No.5 E 氏</p>	<p>本施策につきましては、施策の名称にあるように共に支え合うことで地域課題を解決する仕組みをつくることを目的としております。</p> <p>施策目標に記載している生活支援コーディネーターの関わりにより創出された団体等とは、地域課題を解決するための仕組みとして生み出したものとなりますが、ご指摘のとおり重要なのは活動量となりますので下記のとおり修正します。</p> <p>→「(指標)生活支援コーディネーターのかかわりにより創出された活動数^{※補足}」目標値20(令和12年度)現状値14(令和6年度)</p> <p>※補足:生活支援コーディネーターの関わりにより創出された団体が活動している取組数。</p> <p>【修正】</p>

III-16	<p>施策②-2-1のこども・若者の居場所・交流の場の数の指標には、こども食堂、放課後の居場所も含まれているとのことです。目標値が現状からわずか+2となっています。これは、子育ての施策①-2-1にも関係することですので、目標値の根拠を示すべきだと思います。</p>	No.6 E氏	<p>本指標につきましては過去の傾向を鑑みて設定しているところです。</p> <p>御意見をいただき改めて担当課等と指標について検討を行った結果、子ども食堂等につきましては、素案どおり箇所数を増やす方向ですが、放課後の居場所につきましては、箇所数を増やすというよりは利用希望者が全員利用できるようにすることを目的としたため、指標を下記のとおり修正します。</p> <p>→「(指標)こどもの居場所づくり運営箇所数」目標値13(令和12年度)現状値9(令和6年度) 【修正】</p>
III-16	<p>誰もが交流し合えるまち・あらゆる人の居場所の創出について</p> <p>ひきこもっている若者への居場所作りについて、不登校や離職などから、社会との接点がなくなり、自宅にひきこもりになってしまった若者のために市として居場所を作ってもらえないだろうか。</p> <p>特に義務教育が終わったあと、ひきこもってしまった若者たちには、現状ほとんどサポートがないように感じる。(月に2回の相談では厳しい)少しでも早く社会復帰へのサポートをすることで、家にいることで起こる2次障害(抑うつや精神疾患等)を防ぐことができる可能性が大きいと思う。また、2次障害を起こしても、早めの対処ができるのではないかと思う。</p> <p>まず自宅から出て居場所へ行くことに慣れる→人に慣れる→居場所で何かをすることによって、次の道を考えるようになる→進学、アルバイトや、就職など。</p> <p>就労支援等があるのかもしれないが、ひきこもりの人々は、まだその段階にはなく、まずは働くことではなく、家から外に出ること、人と関わること、社会に適応していくための時間や居場所が必要だと思われる。</p> <p>そのための居場所に一番必要なことは、月曜日から金曜日まで毎日開かれていること(10時~16時など)、なぜならばひきこもりの人々は決められた日にちや時間に外に出られるような状況にないということが一番大きい。外に出ることだけでも大変なのだから、決められた曜日や時間などではなく、たとえ短時間でも思い立った時にいつでも行ける場所があることがとても大切なのではと思う。市の施設をどこか開放していただくことをご検討いただけないだろうか。</p> <p>それから白井市には何人のひきこもりがいるのか、現状を市として把握する必要があるのではないかと思う。</p>	No.7 J氏	<p>若者のひきこもり対策につきましては、総合計画に紐づく基幹計画である地域福祉計画において方針を示しております。</p> <p>地域福祉計画につきましては総合計画に合わせて見直しを図っております。</p> <p>第6次総合計画基本構想では「5.まちづくり推進の考え方」において「<分野横断>での取組」を掲げており、新しい地域福祉計画においても長期にわたりひきこもりの状態にある人など、自ら支援につながる人が難しい人に対するアウトリーチ等を通じた継続的な支援を引き続き行うとともに、一体的かつ包括的な支援体制の強化を図る方針です。</p> <p>現状、御意見いただいたような居場所の創設は難しいところですが、各々のケースにより伴走型で支援して参ります。</p> <p>【その他】</p>

秋田でひきこもりを0にした藤里町では地域をよく知る民生委員や、介護等で自宅に入った事業者などから情報を集めて、全体数を把握したという話だが、それには何年もかかると思われるので、いつそのこと市民にアンケートを送って見たらどうだろうか。市民が一体どんなことで困っているのか、その中でひきこもりがどのくらいいるのか、一定数が把握できるかもしれない。

こういったひきこもりの人々を放置せず、市としてサポートし、その後就労となり、税金を納められるようになれば、市にとって税収が増えることになり、もしひきこもりが長期化し、高齢になっても働けず、生活保護ともなれば、市にかかる負担も大きくなるのではと思う。また、時間が経てば経つほど、家族にとっても負担が大きく、支えていく家族が孤立していき、金銭的にも精神的にも厳しくなり、精神疾患を発症し、働けなくなったり、生活保護にと負のループに陥っていく可能性もあると思われる。

もし、秋田のように白井市でもひきこもりをなくすための対策ができたとしたら、市民にとっても、市にとっても有益なのではないだろうか。また、市としてひきこもりをなくしたということで、市民に寄り添うことができる素晴らしい市だとアピールできるのではないだろうか。

実際にひきこもりの20歳の子供がいる我が家では、小3から不登校になり、中学も行けず、高校に進学したものの、不登校となりそのままひきこもりになり、2次障害で不安障害、抑うつになり、ようやく今年から医療機関にかかることができ、通院を始めたばかりだ。一緒に外に出る、なるべく会話をする、家の手伝いをしてもらう、社会復帰してもらうために家庭ではできることはしているつもりではあるが、家庭だけは限界があり、本人が他に繋がれるところもなく、残念ながらここまでできてしまった。先が見えず、いつまで私も家族もサポートができるかもわからないとも思う気持ちがあるのも現実だ。船橋や柏、松戸など、市外にはそういった居場所があるが実際にそこまで通えるかといえば、現実には親の送り迎え等のサポートなく通うことは厳しいと思う。もし、市内に居場所があったら、自分で通えるかもしれないとなり、親も子もハードルが下がるのではないかと思う。

まずは白井市におけるひきこもりの現

	<p>状把握を始めてもらえれば、この先何かしらの対策が早急に必要ことがわかるのではないかと思う。そして、その先の居場所作りへと進んでいって行って欲しいと切に願っている。</p>		
Ⅲ-16	<p>誰もが交流し支え合えるまちの「誰もが気軽に移動できる交通環境の形成」に目がいききました。</p> <p>コロナ禍以降、このネタをいいキッカケにして新京成バスは大幅にダイヤを減らしました。酷いことに、平日始発バスが9時台。何のために走らせているのか。これには本当に腹が立ちます。通勤、通学に交通網が使えない町には住み続けられないと本当に最近思っています。新京成バスにもダイヤを再度見直してほしいと言っても聞いてもらえませんでした。利用者がいないやコストダウンとの事ですか、利用者が少なかった原因は明確で、帰宅時間にバスがないから、使用者が少なかっただけです。</p> <p>我が家はバスがなくなってしまったので、自転車で最寄り駅まで向かうことになりましたが、雨の日は妻に車で駅まで送ってもらってます。妻も仕事で車で送る事が出来ない日はタクシーを呼んで最寄り駅に行きます。日々この生活は現実的でないです。白井市全体で住みやすい町を作ってください。これでは住みづらく引っ越す人も少なくないですよ。よろしくお願いします。</p>	No.8 A 氏	<p>コロナ禍を契機とした交通需要の落ち込みや、深刻なドライバー不足等の影響により、市内でも路線バスの減便や撤退が生じており、市でもお困りの声を多くいただいています。</p> <p>このため本計画では、既存の公共交通機関と新たな移動手段をそれぞれの特性を活かして組み合わせ、移動しやすい環境を整備していくこととしております。本計画に基づく具体的な施策につきましては、個別計画となる「白井市地域公共交通計画」の策定を今年度進めており、同計画に基づいて取り組んでまいります。</p> <p>【既記載】</p>

Ⅲ-16	交通について 北千葉道路と北総線優等列車(特に特急の新設)	No.9 C氏	北千葉道路の整備による将来的な本市のニーズを考えた上で本計画を策定しております。 北総線の特急につきましては、市でできるアプローチとして白井駅・西白井駅周辺の再開発や企業誘致等により、利用者の増加を目指すことで、特急が停まる駅となるよう価値を高める考えです。 【その他】
Ⅲ-16	交通基盤について 道路交通の重要性は否定しないが、新産業や高度教育研究機能の誘致に際して鉄道利便性の向上は必要不可欠。北総線沿線で唯一アクセス特急の停車しない白井市(注)は、鉄道の利便性向上を図るべきであるし、東京(日本橋)まで乗り換えなしで40分前後を実現できれば、新宿まで35分前後の町田市とも新産業や高度教育研究機能の誘致で競い合える存在になるのではないか。 (注)厳密に言えば他に市川市/船橋市があるがいずれも北総線は市域の北端を掠っているだけ。なお、市役所最寄り駅でアクセス特急が停車しないのも白井市のみ。 また、アクセス特急は、東京都心部のみならず国際線はもとより国内線も充実している成田空港への時間距離を劇的に改善する(45~60分⇒25分程度)。	No.10 I氏	No.9の回答と重複いたしますが、北総線の特急につきましては、市でできるアプローチとして白井駅・西白井駅周辺の再開発や企業誘致等により、利用者の増加を目指すことで、特急が停まる駅となるよう価値を高める考えです。 市民の声や地権者の意見と開発事業者のニーズをすり合わせながら、更なる利便性向上を目指して推進して参ります。 【その他】
Ⅲ-16	「誰もが気軽に移動できる交通環境の形成」という所で、「ナッシー号+新たな移動手段の合計利用者数」の目標が年間118,800人となっていますが、これから人口が減るのに、6年で現状から3割も増やせるのでしょうか。現実味が感じられないです。	No.11 D氏	人口が減少する中においても、高齢化による地域公共交通のニーズは高くなると考えております。そのため、本施策の基、新たな移動手段の導入等により、更なる利便性向上を目指しており、施策目標を掲げたところです。 しかしながら、指標を利用者数にしますと、御指摘のとおり人口の増減にも左右される指標となるため、下記のとおり修正します。 →「(指標)ナッシー号+新たな移動手段の市民1人当たり利用回数」目標値1.54回/年(令和12年度)現状値1.47回/年(令和6年度) 【修正】

<p>Ⅲ-28 Ⅲ-32</p>	<p>定住者の獲得と新たな産業の担い手の獲得について 農業、工業、商業といった白井市ならではの魅力的な産業において、担い手不足は大きな課題です。新たな担い手を総合計画の中で明確に位置づけることが重要だと考えます。 これは新たな企業誘致だけでなく、既存の担い手と次の担い手をどのようにマッチングさせるか、そのためのプロモーションも施策方針に含めてご検討いただくと幸いです。新たな企業誘致と、既存の中小事業者の事業継承のバランスが、白井市の素晴らしい産業を次世代に繋ぐ上で重要だと考えます。 個人的な意見として、この時期に梨の直売店を巡り、毎週違うお店の梨を食べるのがとても楽しみです。無農薬にこだわる事業者、大ぶりで瑞々しい品種を提供する事業者、ぶどうも販売する事業者など、各店の魅力をひしひしと感じています。これらが将来的に事業継承できずに失われてしまうのは大変残念ですので、ぜひ次の世代でも味わえるよう、事業者を支えていただきたいです。</p>	<p>No.12 K 氏</p>	<p>御意見のとおり、担い手不足は大きな課題であると認識しております。 農業につきましては【施策④-2-1 持続可能な農業の実現】、工業・商業につきましては【施策⑤-1-1 市内産業の振興】において、それぞれ担い手不足に対するアプローチを図りますが、その旨を明記するために、【施策⑤-1-1 市内産業の振興】を以下のとおり修正します。 →【施策⑤-1-1 市内産業の振興】 経営の安定と活性化を図るために市内事業者の声に耳を傾け、ニーズに寄り添った市内産業の振興を推進します。そのために、人手確保にかかる市内事業者のスキル向上に寄与する取組を推進します。また、地域の特性を活かした市内特産品を応援する取組や、工業団地エリアの価値を維持向上させる取組を推進します。 【修正】</p>
<p>Ⅲ-38</p>	<p>施策⑥-1-1について、資料によると更新費用 28 億に対して実績 13 億でこのままでは不十分だと読み取れます。一方指標は整備計画の達成率で目標 100%となっていますが、計画を低く設定すれば 100%達成できるわけでこれでは指標にならないでしょう。一方で財源も不足している中で、更新不可欠な設備をピックアップして、その更新率を指標にすることも加えるべきだと思います。</p>	<p>No.13 E 氏</p>	<p>御意見のとおり、限られた財源の中では、いかに効率的に整備を行うかが重要となります。 修繕計画につきましては、劣化度調査を実施の基、策定しており、中でも特に劣化が著しい箇所を優先して修繕するために総合計画にて劣化が著しい箇所を 100%修繕するという目標を掲げております。 その旨が客観的に伝わるよう下記のとおり修正します。 →「(指標)舗装・橋梁・下水道(汚水)の修繕計画、雨水整備計画に対する達成率<small>※補足</small>」 補足:修繕計画については劣化度調査等の結果から特に劣化が著しい箇所を計画に位置づけており、その達成率 【修正】</p>

III-38	<p>⑥災害に強いまち【施策⑥-1-2 防災機能の強化】の内容に賛同するとともに、昨今の情勢を鑑み、下記文章を追加することをご提案いたします。近年の酷暑を踏まえ、各種防災活動拠点や避難所等での空調の重要性は増えています。</p> <p>→災害発生時における被害を最小限に抑えるため、自立・分散型エネルギーの活用や停電対応型空調機の導入など、防災機能を強化し、更なる安全・安心なまちを目指します。そのために、想定した災害に備えての備蓄体制の強化や、出火防止対策の推進などを通じ、発災時における災害リスクの軽減を推進します。</p>	No.14 H氏	<p>避難所等での空調設備の重要性は市としても認識しているところです。</p> <p>令和7年第3回議会定例会においても市内小中学校体育館に空調設備を導入する旨の市長発言があったところですので、市として空調設備の導入を推進して参りますが、本施策には防災機能の強化を記載しておりますので原案のままとします。</p> <p>【その他】</p>
III-41	<p>フロントランナー事業に集中することは、よいとだと思います。その事業に「若い世代の定住促進」を上げるのも賛成です。3で示した施策の中の、どの施策(複数)と特に関連するのか、それを示すと総花的な計画ではなく、メリハリのついた計画になると思います。</p>	No.15 E氏	<p>総合計画のうち「基本構想」は「政策」、この度の前期基本計画は「施策」、前期実施計画は「事業」を示す役割として整理しております。</p> <p>「4.施策展開にあたっての大切な視点」は前期実施計画につなげるための章という位置づけで考えており、具体的なフロントランナー事業については前期実施計画においてお示しする予定です。</p> <p>いただいた御意見のとおり、施策との関連を示すことでメリハリを持たせることも良いアイデアと考えますので、後期基本計画策定の際の参考とさせていただきます。</p> <p>【参考】</p>
他	<p>各施策目標について、目標値が設定されているのはよいと思いますが、目標値の根拠を示すべきだと思います。他の類似市との比較とか、白井市の特徴を踏まえた難易度の違いもあると思います。</p>	No.16 E氏	<p>各目標値につきましては、本計画の末に「資料編」として補足する予定です。現在調整中のため、どこまでお示しできるかは現時点では定かではありませんが、御意見を参考とさせていただきます。</p> <p>【その他】</p>
他	<p>データセンター等を誘致する際に1階に商業施設を併設すればまちのにぎわいに寄与するのではなでしょうか。</p>	No.17 G氏	<p>いただいた御意見につきましては企業誘致の際の大切な視点であると考えています。一つの目的だけではなく様々な効果が副次的に寄与する企業誘致を目指して参ります。</p> <p>【その他】</p>

他	<p>北総線沿線の空き地を有効活用出来ればよいと考えます。沿線に企業を誘致し、雇用を創出するのはいかがでしょうか。</p>	No.18 G氏	<p>企業誘致の候補地につきましては「白井市企業誘致基本方針」により定めているところですが、空き地等有効活用する旨は御意見のとおりと存じますので参考とさせていただきます。 【その他】</p>
他	<p>新しい産業等の誘致について 白井工業団地に代表される従来型の工業集積は引続き重要であり、したがってその活性化を目指した計画の重要性にかわりはないが、人口の社会増につなげるまでの魅力があるかといえは懐疑的にならざるを得ない。 今後この国の経済成長をけん引することになるであろう新しい産業と高度教育研究機能をはじめとする基盤機能の誘致、さらにはこれらをとおした若い世代の誘引が期待される。 大胆に言えばコンテンツ産業や情報サービス/ソフトウェア産業(以下、「新産業」)、さらに大風呂敷を広げれば(学生の定期代が劇的に値下がりしたことも踏まえ)東京大学を誘致するぐらいの戦略性(夢)があってもよい。例えば、“白井駅”が駒場東大前駅に倣って“白井東大前駅”になったらこの市の魅力は格段に向上するのではないか。</p>	No.19 I氏	<p>本計画において、白井駅周辺の「中心都市拠点」及び西白井駅周辺の「生活拠点」における拠点整備を『①若い世代が定住したいまち』の【施策①-1-2 若い世代に向けた住環境の魅力向上】及び『④白井らしい環境を活かすまち』の【施策④-1-1 ニュータウンの再生に向けた住環境の整備】、『⑤新しい産業が栄えるまち』の【施策⑤-2-1 土地利用の見直しによる新たなにぎわいの創出】の 3 つの政策・施策に位置付けており、これらの施策の視点を大切にしながら拠点整備を推進して参ります。 いただいた御意見も参考にさせていただきます。 【その他】</p>

<p>他</p>	<p>都市機能の誘致/整備について 若手漫画家育てた「ときわ荘」のように、起業家をテナントとする施設を整備運営し、これを手掛かりの一つとしつつ将来的に首都圏の中核の一つと目されるような新産業地区を形成する。さらには、大学や研究所の誘致を念頭に文教地区を目指した土地開発を計画する。併せて、白井駅/西白井駅の駅周辺地区を再整備し、(千葉ニュータウン中央駅/新鎌ヶ谷駅周辺地区には及ばないとしても)学生をはじめとする若い世代に魅力のある商業機能の誘致整備を図る。</p> <p>必要な土地を確保する必要があるが、白井市は白井駅/西白井駅を中心とする中核地区近傍にも農用地や未利用地が多量に存在する。実際に開発が行われる時期を5～10年後と想定しても、用途変更等開発に必要な準備措置を念頭に置けば地権者との意見交換や調整に着手するべき時期が近いのではないか。</p>	<p>No.20 I氏</p>	<p>御意見のとおり、地権者との調整等には場合によっては長い年月がかかることが予想されることから、早めの着手が望ましいと認識しております。</p> <p>本計画は白井駅周辺の「中心都市拠点」及び西白井駅周辺の「生活拠点」のほか、「白井市企業誘致基本方針」により定めた候補地における企業誘致を早期に実現させる視点をもって設定しているところです。</p> <p>開発エリアの具体的な将来像を描く際に、いただいた御意見も参考とさせていただきます。</p> <p>【その他】</p>
----------	--	---------------------	---

<p>他</p>	<p>他地域の成功事例に学ぶ事業支援の導入について</p> <p>事業支援を行政単独や市民団体だけで行うことは難しいと考えます。そこで、他地域で同様の課題を解決した事例を参考に、その取り組みを主導した事業者に参加してもらい、包括的な新しい企業誘致と既存事業の継承において、事業伴走支援を行っていただくことが重要だと考えます。</p> <p>市民として、白井市は都心に近いにもかかわらず、自然豊かで混雑しておらず、安心安全に暮らせ、梨という素晴らしい魅力があり、優しい住民が多い、他にはない自治体だと考えます。今回の計画で描かれている新たな生活者の獲得には、白井市がその魅力を率直に発信すること、そして市内の住民や事業者にもその魅力を発信していただくことで、共感する住民が増えると確信しております。</p> <p>そのためにも、既存の事業者や市民、そしてこれから新しく参入する担い手や市民にもこの計画に共感してもらい、積極的な広告塔になってもらうことが重要と考えます。</p>	<p>No.21 K 氏</p>	<p>第6次総合計画基本構想では、「5.まちづくり推進の考え方」のうち「(1)課題や資源の〈共有〉」や「(3)多様な主体との〈連携・協働〉」において、市の枠にとらわれずまちづくりを推進する旨記載しているところです。</p> <p>他地域での優良事例も参考にまちづくりを推進して参りますが、基本構想で掲げた方針を、施策を展開する上でも、より意識するために「4.施策展開にあたっての大切な視点」に「4.6 広域連携による効率的・効果的な事業の実施」を下記のとおり追加します。</p> <p>→4.6 広域連携による効率的・効果的な事業の実施</p> <p>各事業の中には白井市だけで取り組むのではなく、周辺の市とも協力して進めていくことで、より効率的・効果的に事業を推進できるものが考えられます。</p> <p>総務省のホームページでも、「人口減少やインフラ老朽化などの課題に対応し、持続可能な住民サービスを確保していくためには、各自治体が強みを活かし、資源を融通し合うといった地域の枠を超えた連携が重要」と示されています。市町村同士の広域連携や都道府県の支援など、地域の実情に合った方法を選んでいくことが望まれます。</p> <p>白井市は千葉ニュータウンエリアの一部であり、エリアは印西市や船橋市と共有しています。また、印旛エリアに属しつつも東葛飾エリアや京葉エリアとも接しており、地理的にも複数の地域と接する特徴を持っています。実際に住民の生活行動は行政境界に縛られることなく、通勤・通学、買い物やレジャーなど、市域を越えて行われています。</p> <p>こうした状況を踏まえ、市の枠だけで考えるのではなく、お互いの強みを活かした連携・協働により事業を進めていくことが大切となります。</p> <p>【修正】</p>
----------	---	----------------------	---